

第31回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和元年9月5日（木） 10:00-11:30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、常田座長代理、関委員、永田委員、永原委員、竝木委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾事務局長、行松審議官、星野参事官、吉田参事官、中里参事官、鈴木参事官、森参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

倉田室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

佐々木センター長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学予算について

文部科学省から、資料1を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等 ●：文部科学省からの回答）

○「技術のフロントローディング」の新規要求に当たっては、これまでフロントローディングをMMXに適用した成果をどう評価しているのか

●①メーカー複数社で競争させてリスク低減の見込みが立った、②メーカー見積もりが安全側に寄って予算が膨らむということを低減させた、という成果があったものと評価している。

○SLIM、MMXは宇宙科学予算でカバーしきれぬのか。

●次年度以降、JAXA全体予算の中で捉えて、必要額の確保を目指したい。

○MMX、DESTINEY+等の、複数のプロジェクトが立ち上がってきており、宇宙科学研究所のこれまでの人員規模で実施するのは難しいのではないかと。

●来年帰還予定のはやぶさ2等ピークを越えたプロジェクトからの配置替えや、宇宙科学研究所のみならずJAXA全体での必要人員の確保、大学等との連携による人材の確保等、検討をはじめている。

(2) 国際協力による月探査計画への参画に向けて

(3) 国際協力による月探査計画への日本の参画について

文部科学省から、資料2-1から資料2-3を用いて説明があったのち、議題2及び議題3を併せて議論を行った。

委員からは、以下のような意見があった。
(○：意見等 ●：文部科学省からの回答)

○国際宇宙探査は大きなプロジェクトなので、工程表改訂や基本計画改訂の中で今後の方向性をなるべく具体的に見せていくことが重要。

○米国が 2030 年代の火星有人探査も視野に入れており、それに先行する火星無人探査は 2020 年代に活発になるであろう中、それらの国際的な流れから取り残されないよう注意が必要。

●来年 3 月までの議論の中で、是非検討を進めていきたい。MMX の位置付けも重要となってくる。

○インドとの協力による月極域探査が計画されているが、その是非の議論を進める必要があるのではないか。

○月・火星の更に先の太陽系探査を視野に入れた際に、月がどう役に立つ拠点となりうるか、どういった技術を獲得したいか（例えば、軌道間輸送ネットワークの在り方、そのための国際協力の在り方等）という視点を持って、国際宇宙探査の検討にあたるべきではないか。

○月において行う宇宙科学を、宇宙科学研究所がコミュニティの英知を結集した議論を経て早急に提案してほしい。月面のみでなく、ゲートウェイを使った科学も含めて検討いただきたい。

以 上